

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年11月12日

第104号

文責 (校長; 末永栄喜)



三者面談を機に

11月突入と同時に、3年生は三者面談が始まっています。これまで、各高校では入試説明会やオープンスクールが頻繁に開催されてきました。この時期の面談では、最終的な志望校(受験校)を絞っていくのが最大の目的です。やる気は高まっていますか。信念・覚悟は強まっていますか。自分で選択・決意して進学する高校です。この二つは必要最低限(必要不可欠)な要素です。

先日の入試説明会で「夢」について触れましたが覚えていますか。「『夢』は精いっぱい手を伸ばした1mm先にあるもの」です。この「精いっぱい」の努力をしているかどうかは、今後の人生に大きな意味を持ちます。これ以上は無理だという限界に近い努力を続けていますか。自分の夢を叶えることから逆算すれば、今回の「高校受験=合格」は一つの通過点にすぎません。その受験から逆算すれば、明日から始まる期末テストも通過点。さらに、テスト後の見直しや普段の授業内容に対する取組は受験まで続きます。一つ一つを線で結ぶような努力を心がけてほしいと思います。

義務教育9年間で「エスカレーター」だとすれば、高校からは「階段」です。自分の力で進むしかありません。「自分は絶対〇〇になりたい。」「資格をたくさん取って、、、」「勉強をたくさんして、、、」など、明確な目的や目標がなければ高校に行く意味がありません。もちろん、高校合格がゴールではありません。今のうちにやるべきことを確実にできる人であってほしいですね。へこたれるな受験生。

花らばい運動

9月下旬に花の種を蒔いてからおおよそ2か月が経ちました。キンセンカやパンジー、ビオラをはじめ無事に芽を出し、苗として順調に大きくなっています。ただ、毎年植えているサイネリアやデージーの芽立ちが悪く、数が期待できそうにありません。



順調に育った苗を第2段階の作業として、今月に入ってから昼休みの時間を利用して、1,2年生の美化部員の協力を得ながらポットに移植しています。鉛筆研ぎで先を削った割り箸を使い、密集した小さな苗の根をかき分けながら移していく作業は、とても繊細で根気のいる作業でした。当初は、あまりの細かな作業に子どもたちも悪戦苦闘していましたが、慣れてくるにつれ手際よく作業を進めてくれました。第3段階の作業は、これらをプランターや花壇に植え替える予定です。

◆令和6年度 JA 共済小・中学生書道コンクール
○半紙の部(3年) 銅賞 本田凜愛
○〃(1年) 佳作 柴田莉乃 廣瀬あおい
○〃(2年) 佳作 谷口愛弥
○条幅の部(3年) 佳作 林田蒼空



◆中学生の税についての作文

(全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁主催)

○島原税務署長賞 梅澤実花(3年)

○雲仙市長賞 林田恋実(3年)

※学校にも感謝状をいただきました。



◆第43回全国中学生人権作文コンテスト長崎県大会

(県内147校 15,888編の応募作品からの受賞です。)

○優秀賞(KTN テレビ長崎賞)

林田恋実(3年) 「私たちが生きる世界を作るのは」

◆第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆

本便り101号でも3年生の館 流星さんが出場することをお伝えし、吉報を待っていた標記大会ですが、なんと本県選抜チームが全国制覇の快挙を成し遂げて帰ってきました。せっかくなので戦績を紹介します。

◇1回戦 対 オール東東京(関東第一代表)

2x対1(サヨナラ勝ち)

◇2回戦

対 函館ベースボールクラブ(北海道代表) 1対0

◇準決勝

対 久慈DREAMS(東北第一代表) 2対1

◇決勝 対 高知県選抜(四国代表) 1対0

全試合が1点差の好ゲームでした。おめでとう。



民主主義を学ぶ

衆議院の解散→総選挙→特別国会の召集→首相指名選挙→内閣総理大臣の指名と続いた昨日の出来事は、すべて憲法にもとづいた流れの中で行われたものです。

一方、学校でも生徒総会に続く生徒会の役員改選に伴う一連の活動が、規約に則って行われます。立候補の受付は既に始まり、明日の公示を受けての選挙運動、そして29日(金)に立会演説並びに選挙というスケジュールです。

お詫

前号は、誤字脱字だらけの便りになってしまい申し訳ありませんでした。おそらく誰もが気づくであろうミスばかりでした。いつもは点検してもらうのをさぼって、配布することを優先してしまったことが最大の原因です。

ホームページには修正したものを掲載しています。自虐ネタで終わらせてしまうことをお許しいただければ、過去発行分と併せてどこを修正したのか確認しながら再度お読みください。お恥ずかしい限りです。

